

全耳介再建道

王道を極める



第6回 日本耳介再建学会
2023.11.24 fri - 25 sat

会場 札幌医科大学医学部

会長 札幌医科大学医学部
形成外科学講座 教授 四ッ柳 高敏



プログラム・抄録集

第6回 日本耳介再建学会 開催報告

目 次

- 1、 学会日程表
 - 2、 症例検討会プログラム
 - 3、 参加者名簿
 - 4、 Photo コーナー（学会の様子）
 - 5、 参加者の感想
 - 6、 主催者から
-

1、学会日程表

第1日目 11月24日（金曜日）

13:00～17:00	ライブサージャリー 「小耳症(low hairline) 軟骨移植術」 場所:記念ホール2階 大ホール ⇄ 附属病院手術室 会場モデレーター :筑波大学医学医療系形成外科 佐々木 薫 手術室モデレーター:九州大学病院形成外科 吉田 聖 執刀医:四ッ柳 高敏
17:00～17:15	ショートレクチャー 「軟骨採取のコツ」 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学形成外科 北田 文華
17:15～17:45	意見交換会 場所:記念ホール2階 大ホール 司会:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
18:30～	総合懇親会

第2日目 11月25日（土曜日）

8:30～12:00	症例検討会 場所:記念ホール2階 大ホール
12:15～13:15	ランチオンセミナー 「小耳症最前線」 Part 1 聴覚補助機器に対し形成外科医が考慮すべきこと Part 2 ハイブリッド人工耳介の進行状況と今後 場所:記念ホール2階 大ホール 演者:札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏
13:30～15:30	ハンズオンセミナー（※希望者のみ） 「人参を用いた小耳症肋軟骨フレームカービング」 場所:記念ホール1階 会議室A

2、症例検討会プログラム

開会の挨拶

札幌医科大学形成外科 教授 四ッ柳 高敏

演題第1部

座長 玉田 一敬 (東京都立小児総合医療センター 形成外科)

耳介位置異常を伴う小耳症2症例

○吉田 聖 (九州大学病院形成外科)

左小耳症、hemifacial microsomia、下顎縁枝麻痺を伴う症例の耳介形成について

○櫻庭 実, 本多 孝之, 新井 雪彦, 小野 寺文 (岩手医大形成外科)

当科における絞扼耳手術について

○鳥谷部 荘八, 三浦 孝行, 津久井 英威, 今井 俊介 (独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター形成外科・手外科)

小耳症手術モデルの作製

○濱本 有祐, 長尾 由理, 中山 智, 平尾 太祐, 青木 尚久 (倉敷中央病院 形成外科)

当科における小耳症治療 ～札幌医大での学びを経て～

○佐々木 薫, 関堂 充 (筑波大学医学医療系形成外科)

休憩(約10分)

演題第2部

座長 笠井 昭吾 (済生会宇都宮病院 形成外科)

カリフラワー耳介に対する耳介形成術について

○笠井 昭吾¹, 谷 裕美子¹, 大原 博敏² (済生会宇都宮病院 形成外科¹, 国際医療福祉大学三田病院 形成外科²)

Mirror ear の1例

○三浦 孝行, 鳥谷部 荘八, 津久井 英威, 今井 俊介 (仙台医療センター形成外科・手外科)

Mirror ear 様の副耳を伴う耳介低位、耳甲介残存型小耳症に対し耳介形成を行った1例

○西川 純平, 四ッ柳 高敏, 中川 瑞貴, 西端 魁志, 上田 直弘, 原田 二郎, 天王地 敏雅, 宮林 亜沙子, 三橋 伸行, 北田 文華, 加藤 慎二, 山下 建 (札幌医科大学 形成外科)

Polyotia との関連が疑われた小耳症の治療経験

○桑原 広輔, 加持 秀明 (静岡県立こども病院 形成外科)

休憩(約5分)

演題第3部

座長 三浦 孝行 (仙台医療センター 形成外科)

肋軟骨フレーム移植後、繰り返した皮下膿瘍に対しての耳介挙上術の相談

○妹尾 貴矢, 木股 敬裕 (岡山大学病院 形成外科)

小児の耳介 Epidermal cyst の検討

○戸澤 麻美, 森 秀樹, 船木 杏奈, 浅野 遥奈, 泉本 真美子, 村上 達郎 (愛媛大学附属病院形成外科)

当院における小耳症治療の現状

○石垣 達也 (千葉県こども病院 形成外科)

耳甲介の脂腺癌に対して、Masson 法による後耳介皮弁で再建を行った 1 例

○池邊 翔平¹, 森田 尚樹¹, 濱畑 淳盛², 櫻井 裕之³ (地方独立行政法人東京都立病院機構東京都立広尾病院 形成外科¹, 地方独立行政法人埼玉県立がんセンター 形成外科², 東京女子医科大学 形成外科³)

軽度の両側耳甲介型小耳症に対し、両側一期耳介形成を行った 1 例

○天王地 敏雅, 四ッ柳 高敏, 中川 瑞貴, 原田 二郎, 宮林 亜沙子, 三橋 伸行, 加藤 慎二 (札幌医科大学 形成外科)

3、参加者名簿

全国・海外よりお越しいただいた先生方 26名
札幌医科大学事務局(医師、事務) 16名

氏名 *50音順 敬称略	所属
安里 令子	琉球大学病院
池邊 翔平	東京都立広尾病院
石垣 達也	千葉県こども病院
牛尾 茂子	四谷メディカルキューブ 手の外科・マイクロサージャリーセンター
漆館 聡志	弘前大学医学部附属病院
江藤 綾乃	水戸協同病院
親泊 咲江	琉球大学病院
笠井 昭吾	済生会宇都宮病院
鎌田 将史	国立成育医療研究センター
楠目 信三	総合リハビリテーションセンター・みどり病院
桑原 広輔	静岡県立こども病院
齋藤 かれん	水戸済生会総合病院
櫻庭 実	岩手医科大学
佐々木 薫	筑波大学
妹尾 貴矢	岡山大学

玉田 一敬	東京都立小児総合医療センター
鄭 和卿	聖路加国際病院
戸澤 麻美	愛媛大学
鳥谷部 荘八	仙台医療センター
瀨本 有祐	倉敷中央病院
原田 雅幸	奈良県立医科大学
松谷 瞳	東京大学
三浦 孝行	仙台医療センター
吉田 聖	九州大学病院
李 安莉	From 台湾
SOKOLENKO	From ウクライナ
四ッ柳 高敏	札幌医科大学(事務局)
山下 建	札幌医科大学(事務局)
加藤 慎二	札幌医科大学(事務局)
北田 文華	札幌医科大学(事務局)
宮林 亜沙子	札幌医科大学(事務局)
天王地 敏雅	札幌医科大学(事務局)
三橋 伸行	札幌医科大学(事務局)
上田 直弘	札幌医科大学(事務局)

原田 二郎	札幌医科大学(事務局)
西端 魁志	札幌医科大学(事務局)
西川 純平	札幌医科大学(事務局)
中川 瑞貴	札幌医科大学(事務局)
権田 綾子	札幌中央病院
松本 俊太	函館五稜郭病院
事務 2 名	札幌医科大学(事務局)



4、Photo コーナー（学会の様子）

■1日目：ライブサージャリー 「小耳症（low hairline）軟骨移植術」

手術室と会場を「ライブカメラの映像」と「音声」でつないだライブサージャリー。会場内の大画面スクリーンと4台のモニターから映像が配信され、映像を見ながら執刀医とのディスカッションが行えます。今回は参加者の皆さまに執刀医の音声によりクリアに伝わるよう、マイクやスピーカーに改良を加え臨みました。

学会第1回目(2017年)の術式は耳垂残存型の軟骨移植術、第2回目(2018年)は耳甲介型の軟骨移植術、第3回目(2019年)はlow hairline 耳甲介型の軟骨移植術、第4回目(2021年)は耳介挙上術、第5回目(2022年)は耳垂残存型の軟骨移植術でしたが、第6回目(2023年)はlow hairline 耳垂残存型の軟骨移植術を実施しました。

会場モデレーターの佐々木薫先生、手術室モデレーターの吉田聖先生をはじめご参加の先生方から、使用している糸や遺残軟骨の吸収度合いについて、また患側と健側は同一の大きさで再建しているかなど多岐にわたるご質問をいただき、活発な質疑応答がなされました。また、治療後の耳がより自然な耳に見えるよう、日々小さな改良を加え手術方法も進化していますが、執刀医の手術を見学されたご経験のある先生方からは、以前と手術方法を変えた理由についての質問もありました。

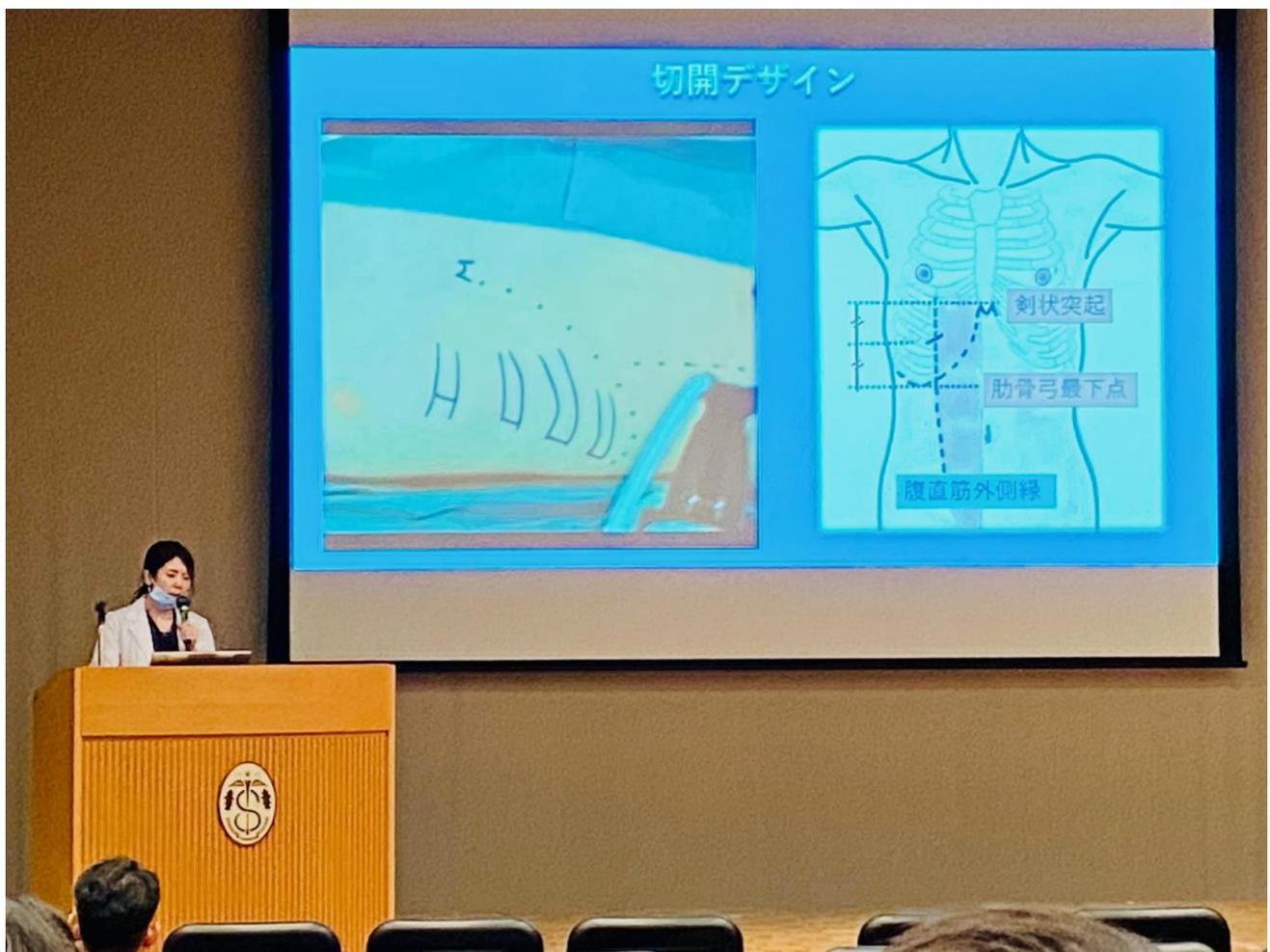


執刀医との質疑応答の様子

■1日目：ショートレクチャー 「軟骨採取のコツ」

昨年度の学会でも好評をいただいております、これまでの参加アンケートにて多数のご要望をいただいております『小耳症における肋軟骨採取』の方法やコツについて、札幌医科大学 形成外科の北田文華先生から講演がありました。

肋軟骨の解剖的特徴や小耳症患者と肋軟骨形態異常の関係性について、また肋軟骨採取部の鎮痛方法、採取の難所となる2つのポイントや切開デザイン・採取の手順等を実際の動画を用いて詳しく説明されました。



切開デザインについて説明されている北田文華先生

■1日目：意見交換会

本学会は耳介の治療に本気で取り組んでいる人、取り組もうとしている人による相談会・意見交換、勉強会の場であり、日本の耳介再建のレベルを底上げすることを目的としています。毎年恒例ではありますが、まずは初めてご参加いただいた方々に向け、このような本学会の趣旨やシステムについて会長の四ッ柳より説明をいたしました。

また、次回の学会の内容や構成への希望を後日アンケートでお伺いし、いただいたご意見・ご希望をもとに第7回目をより有意義な学会にすべく企画していくことが話されました。

なお、第7回目の開催は2024年11月1日(金)～2日(土)を第1希望、11月29日(金)～30日(土)を第2希望とし、他学会の開催状況を見ながら最終的に決定することにいたしました。第7回目も皆さまのご参加をお待ちしております。



会長 四ッ柳による説明

■2日目：症例検討会

耳の治療に熱意を持った先生方が、納得するまで本音でディスカッションする症例検討会。症例検討会は日本耳介再建学会の目玉の一つです。

通常の学会では成功症例の発表が多いなか、本学会では相談症例の発表が数多く行われています。例えば、最も治療に難渋する軟骨移植後の膿瘍に関する相談症例では、考える原因やその原因の確定方法、その後の治療計画などについて意見交換がなされました。

本学会への参加や症例相談の発表、さらには札幌医科大学でのご見学を経て、先生方の治療結果が確実に上がっていらっしゃることも、また手術のトレーニング方法を独自に開発する先生方もいらっしゃる、耳介再建のレベルを底上げしたいという本学会の趣旨を見事に体現されており、学会としても大変嬉しい瞬間でした。

今回はたくさんの演題をご発表いただきまして、ありがとうございました。
座長の玉田一敬先生、笠井昭吾先生、三浦孝行先生ありがとうございました。



意見交換がなされています



本学会のハンズオンセミナーで演者の先生が作製された人參フレーム
回を重ねるごとに立体感が増し、スキルを上げられていることがわかります



(左)演者の先生が軟部組織操作習得のために作製された発砲ウレタンモデル
(右)実際に手に取りディスカッション

■ 学会場でのひとこま ～ 学会ロゴ入りチロルチョコ登場 ～

北海道は海鮮やジンギスカン、スープカレー、乳製品など美味しい食べ物が沢山ありますが、新千歳空港でどれをお土産にしようか迷ってしまうほど北海道銘菓が充実していることでも有名です。本学会では学会場の入口に代表的な北海道銘菓を置き、参加者の皆さんに楽しんでいただいておりますが、今回は事務局 山下の提案による学会ロゴ入りのチロルチョコ(ホワイト&クッキー味)もお目見えしました。

北海道の銘菓と肩を並べるほど大好評で、『可愛い！』と写真を撮ってくださる先生もいらっしゃいました。



■2日目：ランチョンセミナー

冒頭5分間（共催）リオン株式会社 「軟骨伝導補聴器の製品説明」

昨年度のアンケートで「実際に補聴器を見てみたい」というご要望をいただきましたので、本学会では初の試みとなる企業展示を行いました。ランチョンセミナーの冒頭でリオン株式会社様より、「軟骨伝導補聴器」の仕組みや製品概要、価格帯などについてお話しいただきました。



「小耳症最前線」

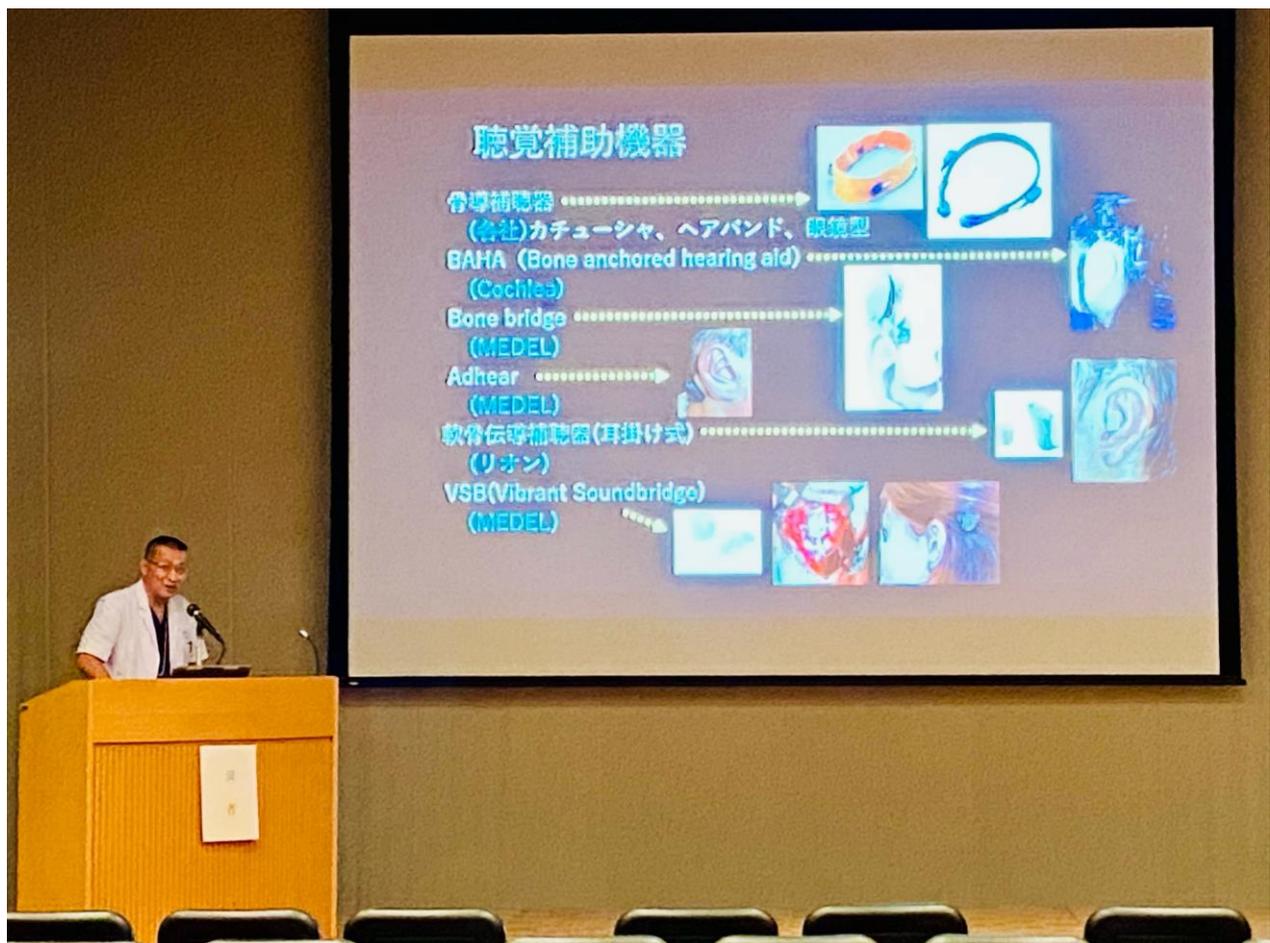
Part1 聴覚補助機器に対し形成外科医が考慮すべきこと

Part2 ハイブリッド人工耳介の進行状況と今後

「小耳症最前線」と題し2部構成で、会長である札幌医科大学形成外科 四ッ柳 高敏が講演いたしました。

Part1 では、昨年度の参加者アンケートにて多数のご要望をいただいております「聴覚補助機器」について、機器の種類とその特性、軟骨伝導補聴器の利点や問題点、また人工中耳挿入手術時の皮膚切開について耳鼻科医と共有すべき点など、形成外科医の立場からお話いたしました。

Part2 では、肋軟骨移植術の問題解決のためにハイブリッド人工耳介を用いた手術を研究開発中であること、またその具体的な手術方法など、現在の進捗状況とともにお話いたしました。



臨床経験をもとに聴覚補助機器についてお話しする会長 四ッ柳

■2日目：ハンズオンセミナー

「人参を用いた小耳症軟骨フレームカービング」

肋軟骨に近い感触を持つ人参と彫刻刀を使用し、肋軟骨フレームを作製します。フレームが出来上がったあとは陰圧をかけて、よりリアルに耳の凹凸の出方を感じていただきます。回を重ねるごとに、先生方のフレーム作製のレベルが上がっています。また、より肋軟骨に近い感触を味わえる人参に代わる素材(片栗粉とシリコン樹脂を混合した素材)をご提案いただいた原田雅幸先生ありがとうございました。



お一人ずつ、フレームをみていきます



陰圧をかけます



石垣先生、完成品とともに



先生方の作品、ハイレベルです



人参に替わる新素材をご提案くださった原田先生(中央)
新素材で軟骨フレームを作製する会長 四ッ柳(左)

5、参加者の感想

1. 九州大学病院 形成外科 吉田 聖先生より

第6回耳介再建学会への参加を通じて、非常に充実した経験を得ることができました。

1日目のライブサージャリーでは、手術室でモデレーターの役割を果たす機会を得ました。幸運にも、四ツ柳先生の手術を身近で見ることができ、その貴重な体験に感謝しています。Low hairline症例は症例が少なく難易度も高いため興味もあり、今年1症例私も経験したこともあり非常に楽しみにしておりました。

手術室での準備から始まるスタッフの協力と流れるような作業に感嘆し、四ツ柳先生の手技には圧倒されました。手術が進行する中で、耳介の残存部から有毛部までの皮膚の使い方や配置、皮膚の欠損と植皮範囲、T P Fの採取範囲など、自身が課題と感じていた点を直接先生に解説してもらい、多くの疑問が解消されました。先生の軟骨の形成技術は見事で、立体的で美しい形状のフレームが完成しました。これまで何度もビデオライブラリーでフレーム作成の映像を見てきましたが、実際に見るとその立体感に驚かされました。手術は非常に良い雰囲気で行われ、四ツ柳先生のお人柄が感じられました。

ライブサージャリーが終わり、学会場に向かう途中、朝とは打って変わっての一面銀世界に出会い、九州から来た私にとっては驚きの体験となりました。

2日目の症例検討会では、具体的な症例相談から特殊な症例の提示、各施設での取り組み、治療方針など多種多様な症例が提示され、活発な議論が繰り広げられました。どれも興味深く大変勉強になりました。私自身は現在治療中で、治療方針について迷っている症例を提示させていただきました。四ツ柳先生や他の先生方から貴重なご意見をいただき大変参考になり、今後の診療に活かしていきたいと思っております。

午後からのランチョンセミナーでは、四ツ柳先生より聴覚補助機器および人工耳介についての講演を受けました。埋め込み型人工中耳について、私も耳鼻科医に尋ねることはありましたが、耳鼻科側が知りたい形成外科側の知識、特に埋め込み型人工中耳手術時の皮切については知っておかねばならない知識であると痛感しました。形成外科医として小耳症手術における機能面についてマスクやメガネをかけることだけでなく、聴覚についても配慮していかなければならないと気づき、何段階も先を走られている四ツ柳先生の凄さを再確認しました。

学会を通じて、全国の先生方と耳介形成に対する熱い思いを共有できたことは非常に貴重でした。このような交流の場を提供して下さった四ツ柳先生や札幌医科大学形成外科の皆様にご心より感謝いたします。来年もぜひ参加させていただき、学びと感動を皆様と共有できればと考えております。

2. 千葉県こども病院 形成外科 石垣 達也先生より

第6回日本耳介再建外科学会参加を経て

私は、2018年の第2回大会、まだ研究会の頃に初参加させていただき、今回で本学会への参加は4回目となりました。現在勤務している病院では、小耳症手術が少なく、以前は助手につく機会もほとんどありませんでした。小耳症の手術のイメージとしては、難しいということだけではなく、形成外科になりたての頃に手術助手に入って丸一日かかっていたイメージがあり、かなり時間がかかる手術だ、本当に大変な手術だというイメージを持っておりました。2018年の学会初参加の時点でも、まだ症例経験もなく、全く右も左もわからないほとんど知識のない状態で参加させていただき、四ッ柳先生の手術手技の早さ・再建耳介の美しさにとっても衝撃を受けたことを覚えております。

・学会初日

本学会参加の目的の一つであるライブサージェリーから始まりました。四ッ柳先生の手技を直接みさせていただけるのはとても貴重で、毎年楽しみにしております。今回は low hair line の小耳症初回の再建手術でした。このタイプの耳介再建のライブサージェリーでの見学は、本学会で2回目となりました。前は全くといっていいほど耳介再建に対して不勉強で、前回の反省も踏まえて少し予習してのぞみました。とても難易度が高く、様々な手技が必要で、四ッ柳先生ご自身も「大変ですよ、時間かかりますよ」とおっしゃってはいました。しかし実際には、無駄のない手捌きで、あれよあれよという間に T P F を起こし、フレームを作成し、植皮をし……。いつの間にか綺麗な耳介が再建されているという、いつもながらにとっても衝撃を覚えました。「なんとか時間内に終わりました～」と、とても爽やかな笑顔でおっしゃられ、それ本心ですか？予定通りですよね？と思わずツッコみたくなりました(笑)

耳介再建の手術時間に大きく影響する要素としては、肋軟骨採取が挙げられます。今回はあのモンスター北田先生ではないとのことで、少し時間が押すのかな、と思っておりましたが、全くそんなことはなくあっという間に肋軟骨採取が終わり、びっくりしました。札幌医科大学の医局員の先生方は皆さんモンスターなんですね。

ライブサージェリー後の肋軟骨採取に対する北田先生の講義も、毎年工夫されていらっしゃるかと思いますが、今年も大変わかりやすく、とても勉強になりました。できたら動画付きの冊子にしていただけませんか？(笑)

ライブサージェリー、ショートレクチャーを終え、その後はこれもまた毎学会で楽しみにしている懇親会に参加させていただきました。私はもともとかなり人見知りをする方で、なかなか他大学・他施設の先生に話しかけることができないのですが、他の学会でもお会いした時にお話しさせていただく先生に出会えたり、また様々な施設の先生と気軽にお話しできて、とても貴重な機会となりました。学会全体が和やかで、親しみやすい雰囲気があり、私にとって本当にありがたい学会です。

・学会二日目

前日の深酒で少々体調が悪く朝起きれるか心配でしたが、30分早まった症例検討会に無事参加させていただきました。今までは、ほとんど小耳症手術経験がないのをいいことに、発表は行わず聞いているだけでしたが、今回は一念発起して演題を出させていただきました。他施設の皆さん

のハイレベルな相談症例などの中、恥ずかしい限りでしたが、暖かいアドバイスを頂けて、本当にありがとうございました。今後の糧にしたいと思います。今後も、初学者がいかに四ッ柳法をマスターしていくか、どのように改善していくと良いのかを経験を踏まえて、報告していければと思っております。

本学会の最後は人参を用いた小耳症肋軟骨フレーム作成のハンズオンセミナーでした。このハンズオンセミナーは、私が初めて本学会に参加させていただいた時から参加させていただいております。初回は本当に何もわからず、とりあえず型に合わせて人参を削って、なんとなく組み立てるだけでしたが、それから比べれば、パーツ毎の削り出しの注意点や、組み合わせ方などはだいぶわかってきたのではないかと、とだいぶ理解が深まってきたのかなと思っております。このハンズオンセミナーは、少しずつフレーム作成について確認できる、上達につながる良い機会だと思います。今後も参加させていただきたいと思っております。

他学会でも小耳症治療は、手技自体大変難しく、ラーニングカーブが長い、形成外科の中でも最難関の手術と言われております。また症例自体もなかなかない現状で、本学会は小耳症治療について基礎的なことのみでなく、最新の改善点についても学べる貴重な機会だと思います。また、小耳症治療に関わっている全国の先生方とも触れ合えるとても良い機会ですので、今後も参加を継続していきたいと思っております。ありがとうございました！！

6、主催者から

札幌医科大学 形成外科 四ッ柳高敏

今回も本会を滞りなく終えることができほっと一息です。事務局長の山下先生、並びにポスター作りから始まり、抄録集の印刷会社への手配、出席者への連絡等の諸業務を一手に行なってくれた秘書の菊地さんには全くもって頭が上がりません。皆さんも毎年テイストの違う独自色の強いポスターをご覧になっているかと思いますが、ほぼ菊地さんのアイデアとセンスによるものです。私が出すと奇抜なだけの危ないポスターになってしまい、出席者を減らしかねないので・・・

そして、耳会と言えはすっかり雪が恒例となってしまいました。前日までは非常に穏やかないい気候だったのですが、今年は初日ライブサージャリーを終えて会場に向かおうとしたらわさわさと雪が降っておりました。いつもお越しになっている常連メンバーの中にきっと雪男か雪女がいるのだと思います(笑)。今年もまた新たに参加くださった方達もいらっしゃいましたが、懇親会で仲良くなつて翌日の症例検討会という流れは良いと思っております。ただ、皆さん頭に雪帽子をかぶっての移動となってしまい、私のせいではありませんが、申し訳なく思っております。また今回は当科の手術を見学に来たことのあるウクライナと台湾の先生もお越しくくださったので、少々国際色豊かな雰囲気になりました。日本語の学会ですよと念を押したのに来てくださって、つかの間ではありましたがまた親交の時間ができたのは嬉しいことでした。

今年のライブサージャリーは、low hairline, lobule type の小耳症に対する肋軟骨移植で、これを4時間以内で行うというなかなかチャレンジングな試みでしたが、何とか時間内に終わらせることができほっとしています。ただ、手術中比較的質問が少なかったのも、あまり本手術の経験者が多くなかったことも一因かもしれません。定型的な手術の方がより参加者の方には実践的であったかなど少々反省しております。これから皆さんのアンケートでのご意見を聞いて来年の手術を検討したいと思います。折れ耳や埋没耳など小耳症以外の手術があれば、そういうのもありかとは思いますが、良いタイミングで組むのはなかなか難しいので・・・症例検討会の方も、low hairline を含むかなり難しい症例に関するご相談が多かったのも、意見が出にくく、次回は我々の方からはもう少し一般的なテーマで発表することを考えようかと思っております。

ハンズオンセミナーは、すでに耳介再建の経験が多い先生はさすがの耳介形態を作成しておりましたが、全体として非常にレベルが高いと感じました。耳の立体感に対するイメージを掴んでるな、と思われる作品が多く、本会によってレベルアップが図れていることを改めて実感した次第です。

来年も皆様の意見を取り入れながらより有意義な内容に進化して行きたいと思っておりますので、また皆様のご参加をお待ちしております。